
りとるひーろー

海月くらげ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

りとりひーろー

【Nコード】

N1306I

【作者名】

海月くらげ

【あらすじ】

ぼくの隣のうちは、ちょっと変わってるかもしれない。

「ほーほほほほ！」

今日も隣の家から高らかな笑い声が聞こえる。

優雅で傲慢な美しい声。まるで、女帝のように威圧的で誇り高いその声は——幼い少女のものだった。

「りーなーちゃん。学校行こ！」

ぼくはいまだに声が響き渡る隣の家に声をかけた。

毎朝大変だなあ、と思いつつもそのまま玄関の前で梨奈ちゃんを待つ。

ぼくの隣の家は昔からちよつと変わったお仕事に就くのが代々のきまりらしい。

そのお仕事は副業として、梨奈ちゃんのお父さんはサラリーマンをしている。梨奈ちゃんも将来はそのお仕事をしつつ専業主婦をするのが夢らしい。

代々続くお仕事を継ぐのはかっこいいと思うし、梨奈ちゃんもお仕事に就きたいと思っているのだからぼくが反対するのはお門違いだとはわかっている。

それでも

「ほーほほほほ！」

「もっと高らかに！」

「ほーほほほほー！」

「もっと堂々と！すべてを見下すように！」

「ほーほほほほー!!」

——最後の方はなんかヤケになっている気がするのぼくの気のせいだろうか。

この毎朝毎朝飽きずに続く日課だけはどーかと思うんだ。

そのあと数回ダメだしされて、ようやくその日の特訓が終わったらしく、梨奈ちゃんがランドセルを背負って外にでてきた。

黒くてさらさらの髪、真っ白い肌にピンクの頬——浮かぶ笑顔は明るく穏やかで、さっきまでの高笑いを欠けらも感じさせない。

梨奈ちゃんはいつ見ても天使のようだ——近所のおばさんの受け売りだけど。

「おはよう史くん。待たせてごめんね。」

笑いすぎて少し擦れた声で梨奈ちゃんがあいさつをした。

「おはよう。学校には間に合うし平気だよ。でも毎日大変だね。」

梨奈ちゃんはどちらかというとおとなしくて控えめな女の子だ。

けれど将来のお仕事のために、ああやってがんばっている。

やるからには徹底的に！と梨奈ちゃんのご両親も妥協せずに指導しているために、最近はその高笑いもだいぶ板についてきたと思う。

：隣に住んでると嫌でも聞こえるから、その上達ぶりをぼくはたぶん誰より実感している。

最初のかぼそくて恥ずかしそうだったのが、今ではちよつとしたものだ。

「大変だけど、やりがいがあるよ。」

梨奈ちゃんはおひさまのようににっこり笑う。

だからこそぼくは、お隣のお仕事に反対こそしないものの賛成もできないのだ。

陽だまりのように温かく優しい雰囲気で、実際だれよりも優しく綺麗な梨奈ちゃん——本気でそのお仕事に就きたがっているのはわかるんだけど、はつきり言うとは合うとは言えない。

だって、悪の秘密結社の女幹部だよ？

真っ黒いとげとげがいっぱいついた服を着て、ムチとか持って哄笑をあげるんだよ？！

梨奈ちゃんのお父さんは悪の秘密結社「Ω」の幹部をやっていて、世界征服を目論む総帥のお手伝いをするのが本業らしい。

梨奈ちゃんも幹部になるために勉強も運動も、とてもがんばっている。

情報収集の為に地域のゴミ拾いなどの行事にも積極的に参加しているし、人の上に立つ練習の為に学級委員長もやっているのだ。

人心掌握のためにいつもまわりの人のことを考えて、困っている人には親切に手助けする。

先生もみんなも梨奈ちゃんをとっても頼りにしてるんだ。

なんかがんばっているのはわかるけど、がんばればがんばるほど目標から離れていく気がする…。

まあ、梨奈ちゃんが楽しそうなのでそれはそれでいいのかもしれない。

「それじゃ、行こうか。」

ぼくが手を差出し、二人で仲良く手をつないで小学校に向かう。

「史くん今日は夕方何時まで遊べるの？」

「今日は父さんが早く帰ってくるから6時くらいかな？」

「お稽古してもらうんだね。」

「うん。ぼくもお父さんみたいなヒーローになりたいからね！」

「かっこいいね！」

「梨奈ちゃんもすごいよ！」

「ありがとう！」

二人で6時まで何をして遊ぶか考えながらゆっくり歩く。

これが、
ぼくたちの日常。

(後書き)

実はりなちゃん編「りとるひーる」もあったりします。
投稿できるかわからないけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1306i/>

りとるひーろー

2010年10月15日10時27分発行